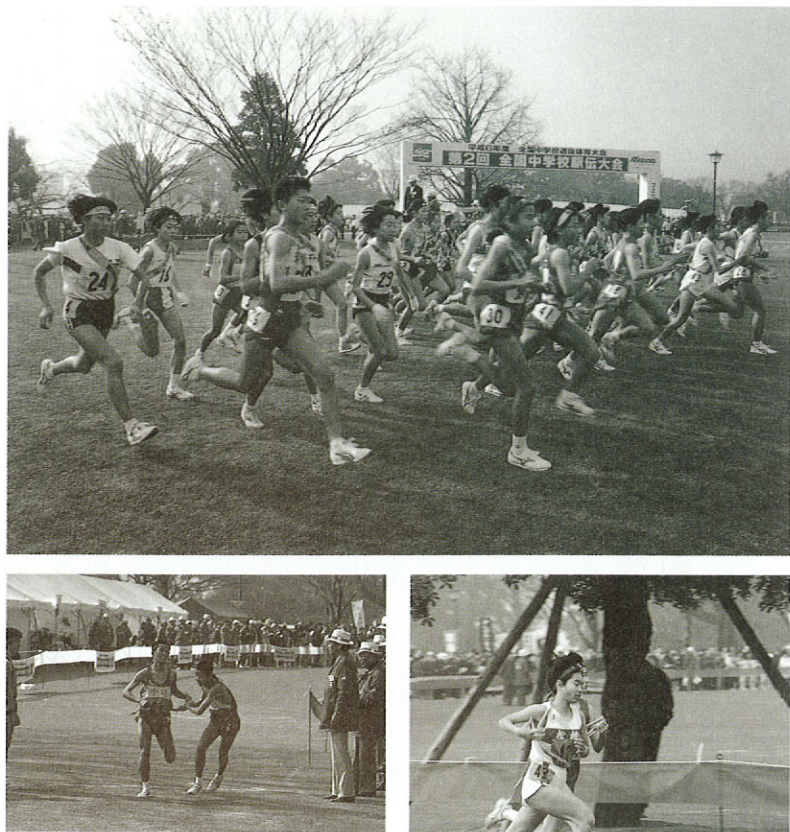


小川中(男子)準優勝!!松橋中(女子)も五位に 全国中学校駅伝第二回大会開催

明日のマラソン界を担う 中学生ランナーたちが力走!

県勢、頑張る!

去る十二月二十七日、第二回全国中学校駅伝大会が、熊本城内公園で行われました。各県代表の男女各四十八人



ーム。本県からは、小川中学校(男子)、松橋中学校(女子)が、開催地・熊本市の代表として西原中学校(男子)、出水中学校(女子)が出場。沿道には、約一万人の応援者が詰め掛け、中学生たちの力走に声援を送りました。コースは、普通のロードレースと異なり、芝道を取り込むなど、中学生の足に配慮。また、日本三名城の一つ、熊本城のたもとを走る、曲り角あり坂ありの変化に富んだコースで熱戦が繰り広げられました。結果は次のとおり兵庫県勢のアベック優勝となりました。

男子：陵南中学校(兵庫県)
女子：一宮南中学校(兵庫県)
ちなみに、本県勢の成績は、小川中学校は第二位、松橋中学校は第五位、西原中学校は第四十四位、出水中学校は第三十三位。特に、小川・陵南の優勝争いには目を見張るものがありました。

日本の文化・駅伝
大会の本県開催は、県民の強い希望

によりかかったものですが、もともと本県は、箱根駅伝を考案し、「マラソンの父」といわれた故・金栗四三を輩出したところ。近年では、松野明美選手をはじめ各駅伝チームの活躍もあり、広く「駅伝好き」の県民として知られています。競技力についても、今回の成績からもわかるように、中・高校生の実力は全国的に見てもトップクラスです。

今年も熊本で開催「決定」

全国大会の開催は、熊本を全国にアピールする絶好の機会です。開催前には在熊の県人会からの問い合わせがあたり、大会当日も、第一回に比べ報道関係者が増えるなど、本大会に寄せられる関心は年々高まっています。大会に伴い、県外からの選手団・応援者などたくさんの方が熊本を訪れましたが、今回新たに観光案内所を設置、熊本観光にも一役買いました。なお、第三回大会も熊本市で開催されること、一月の日本中体連理事会で正式に決まりました。「平成十一年の熊本国体までは熊本で」という声も多く、連続開催も夢ではなさそうです。

いよいよ博多「八代間」にも着手

熊本駅の整備が動き出します

整備計画の決定から早二十二年。九州新幹線は県民の悲願ですが、昨年十二月、新たな進展が見られました。熊本駅周辺の用地取得に必要な工事実施計画の認可が決定。測量設計費が平成七年度予算に計上されることになりました。

九州新幹線は、平成三年に八代「西鹿兒島間」が着工。博多「八代間」がとり残されたかたちになっていました。しかし、未着工区間の建設に関し、都市計画上、熊本駅整備の緊急性が認められ、先行して熊本駅整備がスタートすることになりました。

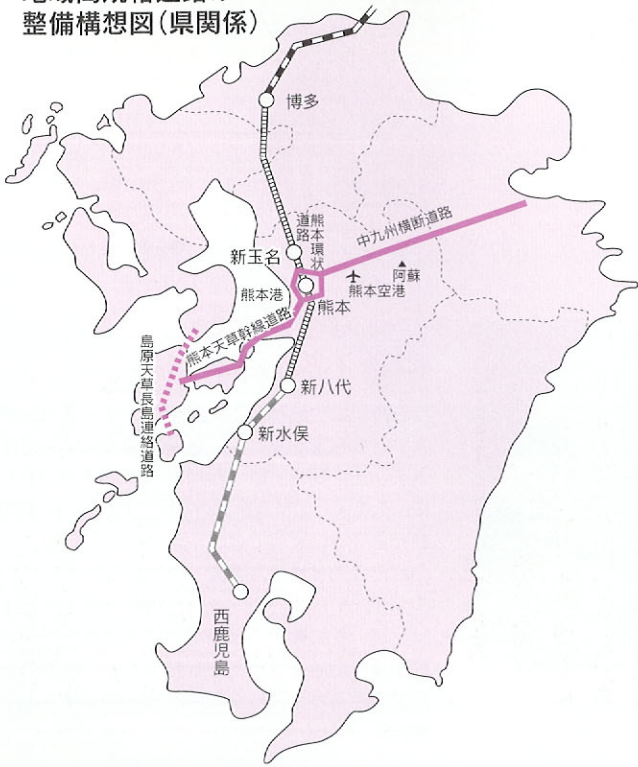
地域間のネットワークを強化 地域高規格道路の指定

阿蘇が、天草が、大分が 近くなる

地方と中央の格差をなくし、国土の均衡ある発展のためには、交通基盤の整備が不可欠です。この度、次の三線が「地域高規格道路」計画路線に指定され、高速道路並みの道路として整備していくことになりました。

を貫く「島原天草長島連絡道路」も候補路線に指定されています。地域発展には、核となる都市を中心とした広域的な経済・文化プロットをつくる必要があります。「地域高規格道路」とは、このようなプロットの形成を支援するための①通勤圏拡大や都市「農山村部の連携を強化する道路、②高速自動車道を補い、ブロック間の活発な交流を促す

九州新幹線の整備状況と 地域高規格道路の整備構想図(県関係)



道路、③空港や港といった広域交流拠点や地域開発拠点などを結ぶ道路のことです。基本的な構造は四車線以上。自動車専用道路、またはそれと同程度の機能を有する質の高い道路で、時速

六〇キロから八〇キロでの走行が可能です。「地域高規格道路」は、各プロットをネットワークで結びつけ地域の発展に大きく貢献するものと期待されています。

九州新幹線熊本駅工実施計画の認可決定

今後は、平成八年中に整備新幹線計画が再検討され、次のステップへと進むこととなります。八代「西鹿兒島間」は「スーパー特急」を前提として工事が進められていますが、

将来は博多「西鹿兒島間の全線」をフル規格の新幹線が走る予定です。そうなれば、熊本から東京までは四時間三十九分、大阪までは約二時間三十九分、名古屋までは三時間十九分、博多までは二十四分で行けるようになります。